

JA全農ちば 営農情報集 (4月号)

今月の情報

1. 水稲・田植え前後の管理について
2. 果樹(ナシ) 病害虫防除情報
3. 園芸野菜 病害虫防除情報

4月の気象について(気象庁 4/2 発表 長期予報(1か月)から)

1. 3月までは高温が続いていましたが、4月は気温・降水量ともに平年並みの予報となっています。

特に4月中旬(11~17日)は晴れの傾向が強い予報ですので、ハウス・トンネルの温度管理には注意しましょう。

(長期予報(1か月)は毎週木曜日に発表されます。週予報とともに確認し、今後の栽培管理の計画を立てましょう)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】関東甲信地方



【降水量】関東甲信地方



【日照時間】関東甲信地方



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

注意とお願い

農薬登録は掲載時点の内容です。農薬を使用する際には、最新の登録内容をご確認ください。

園芸施設 被害対策

全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています
アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照(JA全農ちば営農資材コーナーからもリンク)
HP: <https://www.agri.zennoh.or.jp/N_index.aspx> または「アピネス」で検索

営農技術情報集のカラー版や、その他の営農情報は全農ちばHP内営農情報コーナーにて公開中!

全農ちばHP< <http://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html> >

水稻・田植え前後の管理について

J A全農ちば
営農支援部

今年も稲作が始まり、代かきや育苗管理作業で忙しくなります。気象庁発表の1ヶ月予報では気温・降水量ともに平年並みと予想されています。

育苗中、急な温度変化によって苗に「ヤケ」等の心配があります。特に被覆を張り替えたハウスは注意が必要です。

近年、気象の変化が極端化しております。高温だけでなく突発的な低温にも注意しましょう。

1. 今後の育苗管理について

ハウス内は昼間は30℃以上、夜間は10℃以下にならないようにハウスの「換気」と「保温」に努めましょう。

被覆を張り替えたハウスは、特に曇天続き後に晴天となった場合の温度管理に注意してください。

ハウス内の温度が上昇してから換気では遅いため、高温が予想される日は早朝から換気を心がけましょう。

育苗期の気温が高く推移したときの注意点は以下の通りです

- (1) 苗の生育が早まり本田の準備（代かき作業等）に追われてしまい、育苗管理が疎かになってしまう。
- (2) 老化苗・徒長苗になりやすい。
- (3) 老化苗・徒長苗を移植したため、活着不良や除草剤の薬害が出やすくなる。

2. 田植時の初期害虫の防除について

初期害虫の種類と発生量を考慮した箱施薬剤選択が重要です。いもち病常発田や空散未実施地域には、殺虫殺菌混合剤を使用してください。

薬剤の効果を高めるために、

- ① 1箱当たりの散布量（50g）を必ず守る。
- ② 散布前に苗についた露を払い落とす。
- ③ 散布ムラに注意し、均一に散布する。
- ④ 散布後は手で苗を払い薬剤を下に落とす。 の4点をしっかりと実施しましょう。

※昨年イネドロオイムシ対策で箱施薬剤を使用してもイネドロオイムシの食害により葉が白くなってしまった圃場では、必ず薬剤を変更してください。



イネドロオイムシ成虫・幼虫

- (1) イネドロオイムシの発生が・・・

多い水田 ⇒ フェルテラ箱粒剤 アドマイヤーCR箱粒剤など

少ない水田 ⇒ ワンリード箱粒剤 08 プリンス箱粒剤 パダン粒剤4など

- (2) 初期害虫+いもち病の常発田

デジタルコラトップアクタラ箱粒剤 Dr. オリゼフェルテラ粒剤など

- (3) 初期害虫+いもち病、紋枯病の常発田

エバーゴルフオルテ箱粒剤

3. スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

年々、被害地域が広がっています。令和元年は平年に比べて被害・発生ともに多く、暖冬も重なり本年産でも発生が懸念されます。

密度が多い水田は5月上旬の移植後に被害が出やすい傾向にあります。薬剤防除だけに頼らず、耕種的防除と組み合わせて対応することが重要です。

（1）耕種的防除

- ・田植前にジャンボタニシの捕殺に努め、水田の取水口に5mm以下の金網やネット等を設置し侵入を防ぐ。
- ・ピンク色の卵は水中に払い落とす。
- ・水田の畦畔及び用排水路の雑草を刈り取る。
- ・深水部は被害が多くなりやすいので、均平を取り、丁寧に代かきをおこなう。
- ・稲4葉期までは4cm程度の浅水で管理し活動を抑制する。

（2）防除薬剤

薬 剤 名	使用時期	使 用 量	効 果
キタジンP粒剤	本田初期	3～5 kg	殺 貝（稚貝～中貝）
パダン粒剤4	播種前又は田植当日	60～100 g／箱	食害防止
	本田初期 (収穫30日前まで)	4 kg	
スクミノン	収穫60日前まで	1～4 kg	殺 貝（中貝～成貝）
スクミンベイト3	発生時	2～4 kg	殺 貝

注：キタジンP粒剤は、田植直後～5日以内を目安に早目に散布して下さい。

貝が大きくなると防除効果が低下します。

殺貝剤と食害防止剤の併用はお互いの効果を相殺してしまうので、使用する場合は1週間以上間隔を開けてください。



ジャンボタニシ成貝



ジャンボタニシ卵塊

4. 雑草防除について

除草剤は登録上の「使用時期」を確認してから散布するようにしましょう。

特に初期剤は田植え前の使用時期【**代かき後～移植7日前まで**】を守って使用してください。

（1）水稻除草剤使用上の注意点

ア. 水田に何の雑草が生えるか確認し除草剤を選択する。

イ. 田面がでこぼこしていると効果にムラが出るので、代かきを丁寧に行い、圃場田面の均平化を図る。

農作業安全トラクター巻き込み事故注意！**食の安全安心**使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

ウ. 散布後3～4日間は水を切らさないようにし、除草剤の効果を安定させる。

エ. 散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

オ. 各薬剤の散布量を守り、薬剤の使用方法をよく読み正しく使う。

カ. 軟弱徒長苗や極端な浅植え圃場は薬害を助長するので避ける。

(2) 薬剤の処理方法

ア. 比較的雑草の発生が少ない水田 ⇒ 一発処理による雑草防除

初中期一発剤を使った除草剤一回で防除する方法。「代かき～田植えまで」の日数を4日以内とし、田植え後10日以内に散布。

薬剤の使用時期を確認し、適用されているノビエの葉齢までに処理しましょう。

イ. 多年生雑草や雑草の発生量が多い水田 ⇒ 体系処理による雑草防除

初期剤＋初中期一発剤（または中期剤）の2段階の処理方法。雑草が多い、または代かき～田植えまでの日数が空いてしまう場合などに行う。多年生雑草などは栽培期間中発生し続けるので、防除効果の高い体系処理がおすすめです。

初期剤

ダッシュワンフロアブル、ピラクロンフロアブル、メテオフロアブル、サキドリEW、など

※田植え前の使用時期に注意

初中期一発剤

エンペラー、コメット、ボデーガードプロ、バッチリLX、エーワンなど



5. 適正な栽植密度の確保について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」は茎数が不足すると減収につながるため栽植密度は18.0株/㎡（60株/坪）とし、移植が遅れた場合も極端な疎植は避けてください。

「コシヒカリ」の場合は16～18株/㎡（53～60株/坪）とし、植え付けが5月中旬～下旬の遅植えの場合は施肥窒素量を減量し、栽植密度を15.0～16.5株/㎡（50～55株/坪）にしてください。

6. 田植え後の水管理について

晴天日には浅水で管理し、活着を促し早期に分げつを確保しましょう。また、低温や強風時合は、深水で管理し保温に努める事も重要です。天候を無視した深水管理は分げつを抑制しますので避けましょう。

また除草剤（一発剤）散布後3～4日間は水を動かさない。7日目までは落水かけ流しをしないことが除草剤を上手に効かせるポイントです。

作成：古内

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1 はじめに

本年は3月の気温が平年より高めに推移し、一部作物では害虫の発生がやや早い可能性があります。防除が遅れないよう、圃場を確認しましょう。また気温の変化が大きい時期なので、施設内の温度管理にも気を付けましょう。

2 キャベツ・ダイコン 他アブラナ科（アブラムシ類）

主にダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシ・モモアカアブラムシが発生します。ダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシは表面に分泌物が付いており、白い粉を被ったように見えます。モモアカアブラムシは赤色または淡い黄緑色をしています。発生が増えると葉の萎縮等の被害が生じます。また、収穫物にアブラムシ類が紛れていると、品質の低下に繋がります。

○キャベツ アブラムシ類防除薬剤

対象病害虫	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	29	ウララDF	2000～3000	収穫前日	2回以内
	4A	アドマイヤーフロアブル	4000	収穫7日前	2回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日	3回以内
	23	モベントフロアブル	2000～4000	収穫7日前	3回以内

○ダイコン アブラムシ類防除薬剤

対象病害虫	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	29	ウララDF	2000	収穫前日	2回以内
	4A	アドマイヤーフロアブル	4000	収穫14日前	2回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日	3回以内

3 キャベツ・ダイコン 他アブラナ科(コナガ)

暖冬傾向の場合は、コナガの発生が想定されます。コナガの幼虫は葉裏～芯に隠れていますので、圃場確認の際は葉をめくって裏側も確かめましょう。

薬剤は同系統の薬剤の連用・多用を避けて使用しましょう。他のチョウ目害虫やアブラムシ類も併発しますので、下記薬剤表の特性などを参考にしてください。



コナガ成虫（体長 10mm）



コナガ幼虫 葉の表面を薄皮一枚残して食害する

○キャベツ チョウ目害虫防除薬剤（コナガ対策）

対象病虫	IRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コナガ アオムシ	6	アフーム乳剤	1000～2000	収穫前日	3回以内
	5	ディアナSC	2500～5000	収穫前日	2回以内
	21A	ハチハチ乳剤★	1000～2000	収穫14日前	2回以内
	UN(不明)	プレオフロアブル	1000	収穫7日前	2回以内
	23	モベントフロアブル★	2000	収穫7日前	3回以内
	UN(不明)	ファインセーブフロアブル★	1000	収穫3日前	2回以内
	30	グレースシア乳剤	2000～3000	収穫7日前	2回以内
	14	パダン SG 水溶剤★	1500	収穫14日前	4回以内
	BT剤★	ゼンターリ顆粒水和剤	1000～2000	収穫前日	—
		エスマルクDF	1000～2000	収穫前日	—

※ キャベツ以外のアブラナ科作物は登録内容を確認し使用しましょう。

★の薬剤は使用上のポイントがあります

- ①ハチハチは大型チョウ目が苦手なので、タバコガ・ウワバなどが発生した場合には注意が必要です。
- ②モベントはアブラムシ防除、ファインセーブフロアブルはネギアザミウマ防除を兼ねますが、大型チョウ目対策はできません
- ④パダンはアブラムシ、ナメクジ防除も兼ねます
- ⑤BT剤は若齢幼虫でないと効果が十分に発揮されないなので、発生前から使用しましょう。

4 トマト（コナジラミ類）

（1）コナジラミ類

県内ではオンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生します。葉のすす汚れに加え、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介する恐れがあります。両種が混在して発生しますが、近年ではオンシツコナジラミの方が多く見られることもあります。また昨年は、一部の地域でトマト黄化葉巻病が多発生していましたので発生には注意しましょう。

薬剤使用時のポイント

- ア コナジラミ類は主に葉裏に寄生しています。葉裏にも薬剤がかかるよう散布しましょう。
- イ 白い成虫が目につく高さを飛んでいて気が付くことが多いですが、寄生は下葉から始まります。かがんで下葉を返し右のような幼虫・サナギが見つかった場合は、すぐに防除を実施しましょう。
- ウ 同系統薬剤の連用は避けましょう。

コナジラミ類 幼虫・サナギ

【幼虫】
体長 1mm 以下

【サナギ】
体色濃い
体長 1.5mm

葉裏についていないか確認しましょう

(2) アザミウマ類

トマトでは葉の食害や果実に白ぶくれ症状に加え、トマト黄化えそウイルス（TSWV）、トマト茎えそ病（キク茎えそウイルス・CSNV）を媒介する恐れがあります。県内ではミカンキイロ、ヒラズハナアザミウマが主に発生します。ミカンキイロは葉裏、ヒラズハナは花（果実）へ寄生することが多いです。有効な薬剤が少ないため、同じ系統の薬剤の連用・多用は避け、ローテーション防除を行ってください。

● トマト コナジラミ類 ☐ ・アザミウマ類 ☒ **マルハナ影響日数に注意※下記に記載**

☐	☒	薬剤系統	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
☐	☐	マクロライド系	6	アフーム乳剤	2000	収穫前日	5回以内
☐	☐			アグリメック	500～1000		3回以内
☐	☐	ネオニコチノイド系	4A	ベストガード水溶剤	1000～2000		3回以内
☐	☐	スピノサド系	5	ディアナSC	2500		2回以内
☐	☐	ジアミド系	28	ベネビアOD※1	2000		3回以内
☐	☐	その他①	9B	コルト顆粒水和	4000		3回以内
☐	☐	その他③	4C	トランスフォームフロアブル	1000～2000		2回以内
※2	☐	その他④	UN	ファインセーブフロアブル	1000～2000		3回以内

※1 葉害が出るためアミスターなどのQoI剤との混用、隣接散布不可 ※2 タバココナジラミのみ
 <マルハナ影響日数>

アフーム乳剤：2日

アグリメック：7～14日

ベストガード水溶剤：10日以上

ディアナSC：1～3日

ベネビアOD：1日

コルト顆粒水和剤：3～7日

トランスフォームフロアブル：2～5日

ファインセーブフロアブル：1日 作成：名雪・佐藤

5 ニンジン（トンネル栽培）〔ヒョウタンゾウムシ〕

ヒョウタンゾウムシの多くは圃場外から侵入し、畝内へ入ってきます。マルチの隙間や土の塊の下に潜っていることが多いです。トンネル除去前後の発生状況を確認しつつ、成虫防除としてコテツフロアブルの散布を行いましょう。散布はニンジン株元や畝全体によくかかるよう行いましょう。



○ニンジン ヒョウタンゾウムシ 防除薬剤

対象 病害虫	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
ヒョウタン	13	コテツフロアブル	2000	収穫前日	2回以内	成虫防除剤
ゾウムシ	22B	アクセルフロアブル	1000	収穫前日	3回以内	成虫防除剤

作成：名雪

果樹(ナシ) 病虫害防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1 はじめに

本年は平年よりも開花が早い傾向にあります。すでに豊水は開花し、幸水も4月上旬には開花を迎える地域が多いと予想されます。気象情報に注意し、散布タイミングを逃さないようにしましょう。

2 開花期間の黒星病防除

- (1) 芽基部病斑を確認した場合は摘除しましょう(右図)。
- (2) 開花期間が長引き7日以上にわたる恐れがある場合、トレノックスフロアブルの臨機散布を加えましょう。
散布当日の受粉作業は避けましょう。
- (3) 4月8～9日にかけて千葉県では降雨の予報が発表されております(4月1日時点)。この降雨が幸水の開花時期に重なる地域もありますので、降雨前に防除しましょう。
- (4) 開花初期のマネージDF代替剤について
現状マネージDFの入手が困難となっているため、代替剤としてアンビルフロアブルを選択しましょう(耐性菌対策のためトレノックスフロアブルを加用してください)。
- (5) ニセナシサビダニ対策が必要な園は、表の4月下旬以降を参考に、モベントフロアブル散布を実施しましょう(ただし十分な防除効果を得るため、新梢展葉後に散布する)。



表：4月の防除体系

4月上旬	黒星病・赤星病	マネージDF 6,000倍 または アンビルフロアブル 1,000倍 + トレノックスフロアブル 500倍	21日前/3回 30日前/5回	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症(胴枯病菌による)の防除のため使用する。
	アブラムシ類	+ ウララDF 2,000倍	14日前/2回	・モンシロドクガ等の食葉性害虫対策は、ダイアジノン水和剤34 1,000倍(14日前/6回)を散布する。
4月中旬	黒星病	芽基部発病芽の摘除 (交配時に努めて実施)		・交配期間が7日間以上にわたり黒星病の発生が心配される場合に限り、トレノックスフロアブル500倍(30日前/5回)を散布する。受粉当日の散布は控える。
4月中旬 ～下旬	黒星病・赤星病	スコア顆粒水和剤 4,000倍 + トレノックスフロアブル 500倍	14日前/3回 30日前/5回	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症(胴枯病菌による)の防除のため使用する。
	アブラムシ類	+ バリアード顆粒水和剤 4,000倍	前日/3回	
4月下旬～ 5月上旬	ニセナシサビダニ・チャカイ ワザミマ・疫病	ハチハチフロアブル 2,000倍	30日前/1回	・疫病の発生が心配される場合はアリエッティ水和剤1,000倍(14日前/3回)を散布する。 ・ニセナシサビダニ被害が激しい場合は新梢展葉を確認してから、モベントフロアブル 2,000倍(14日前/3回)を散布する。

マネージDF・アンビルフロアブル・スコア顆粒水和剤はDMI剤(FRAC:3)に分類され、同系統の薬剤となります。開花時期の黒星病防除として重要剤ですが、連用・多用すると効果低下の恐れがあるので、トレノックスフロアブルと合わせて使用し、耐性菌発生を防ぎましょう。

作成名雪

農作業安全 トラクター巻込み事故注意！食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば